



官六に始まり官六に終わる？ 私的医学図書館振り返り

加藤 晃一*

新潟大学学術情報部

I. はじめに

私は昭和末期に千葉大学附属図書館に採用され、現在は新潟大学附属図書館の事務を所掌する学術情報部に在籍しています。千葉大学も新潟大学も元々は金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学とともに「官六」「旧六」「旧六医科大学」などと呼ばれる官立医科大学、この「官六」の図書館が「日本医学図書館協会」（以下、医図協）の礎となった「官立医科大学附属図書館協議会」の中軸を成したことをご存じの方も多いでしょう。図書館員歴は長いものの医学図書館員歴はさほどでもない私ですが、熱い、厚い御縁が幾つもあります。自分の仕事を振り返りながら医学図書館の動きなどを皆さんにも思い出していただければ、と思います。

II. 千葉大学時代

1. 亥鼻分館その1（旧館時代）

本館と園芸学部分館（現在の松戸分館）を経験し、図書館員生活6年目の1990（平2）年に亥鼻分館へ着任しました。旧亥鼻分館は今では学食などが入る厚生施設（学食や売店）になっていますが、当時は入口を入ると右が図書館職員の更衣室、左が図書館スペース、入ると1階の閲覧室にはカウンター、新着雑誌や図書中心の書架、階段を上がって2階の左側が事務室（当時は事務長制で3係）、右に行けば製本雑誌の間に閲覧机、その先は空き教室に書架を並べた書庫でエレベータでの移動、書庫の非常口を隣接する看護学部への近道に使う教員が多く、それがセキュリティ的に悩みの種でした。この亥鼻分館は1971（昭46）年に医学部分館として設置以来、仮設としか思えない状態でしたので、新館建設が課題であり、私の在籍時も開館間もない大阪大学生命科学図書館を見学に行くなど、情報収集を重ね新館構想を検討し

ていました¹⁾。備品も千葉医科大学時代から引き継いだと思われるものがあり、間宮商店（日本最初の図書館用具商社）の書見台があったことは驚きでした。

当時の情報サービスといえばMEDLINEやCINAHLのCD-ROMが当たり前、CD-ROMでフォローできない最新の文献情報は電話回線で海外のオンライン・データベースへ接続する従量制との併用でした。CD-ROMはSilverPlatter社とDIALOG社のどちらを選ぶかで悩まれた図書館も多かったのではないのでしょうか。またCD-ROMサーバーでの提供も話題になった頃でした。『Journal Citation Reports』も『Science Citation Index』の付録扱いで冊子体からマイクロフィッシュに切り替わった記憶があります。

図書館業務システムは導入されており西千葉の本館とオンライン接続で外国雑誌のチェックインができたものの、1件入力する間にマニュアル（ビジュアルカード）だった和雑誌のチェックインが数点できるという、のんびりとした速度でした。『医学中央雑誌』もまだ冊子体、記憶が確かならば事前に当年分の数巻に分けた請求書類が届いて、請求書類の内容に沿ったものの納品直後に支払うという決まりで少々面倒でした。データベースになった今とは大違いです。

医図協では第26回医学図書館員研究集会（1991（平3）年）に参加させていただきましたが、台風に見舞われた中、無事開催されたものの「最悪の状態の中で開催された」と報告されています²⁾。

2. 亥鼻分館その2（新館時代）

現在の亥鼻分館は1996（平8）年11月の開館、四半世紀の念願叶った新築の独立館誕生でした³⁾。お披露目の翌年に千葉大学から筑波大学・高エネルギー加速器研究機構へ出向したため勤務することなく、千葉大学へ戻った後、4年してからの異動、事務部再編の都合で1年だけの勤務でした。旧館を知っているだけに新しく広々とした亥鼻分館で働けて楽しく、週及入力のアルバ

*Koichi KATO : 〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050
番地 新潟大学附属図書館. kkato@lib.niigata-u.ac.jp
(2020年11月24日 受理)



イトだった千葉大学の学生2名が後に国立大学の図書館に就職したり、愛知県での第22回医学情報サービス研究大会に発表者の一員として参加するだけでなく分科会の座長を務めたり⁴⁾、といった御縁がありました。

3. 医学情報サービス研究大会

亥鼻分館から本館に戻った2006(平18)年、実行委員としてお声掛けいただき、第23回医学情報サービス研究大会(以下、MIS23)を千葉大学で開催、事務局を担当しました。MIS23では通常のプログラムに加えて公開シンポジウムを開催したこともあってか、300名を超える方々にご参加いただき、懇親会の会場が通勤ラッシュの電車のごとき過密状態になるなど盛会裏に終了しました⁵⁾⁻⁷⁾。今でもMIS23での繋がりが続いており、「ライフサイエンス・ライブラリアンズちば(LLC)」の例会などには時々参加させていただいています。医学情報サービス研究大会は最近ご無沙汰していますが、第28回京滋大会と第29回築地大会には参加し、刺激をいただきました。

Ⅲ. 浜松医科大学附属図書館

2010(平22)年に学術情報課長として浜松医科大学(以下、浜医大)に着任、図書館は1978(昭53)年の竣工でしたが、傾斜地にあるがゆえ1階の一部が半地下のような構造で湿気も多く、除湿施設も不調で製本雑誌のカビに悩まされ、毎年除去のための予算を要求しているほどでした。当時の学長の「ILLの収入も多くないうえに毎年のようにカビ除去の経費がかかるなら電子ジャーナルに切り替えて処分せよ」という鶴の一声で、バックナンバーは一気に電子ジャーナルへのシフトとなりましたが、購入タイトルの調整や必要額の試算に苦労しました⁸⁾。処分する製本雑誌の山を見た時は複雑な思いでしたが、製本雑誌と電動集密書架を撤去した跡をラーニング・コモンズに転用するプランを後任課長に託し実現していただきました。近年でも学長が図書廃棄を指示されたそうで、歴史は繰り返され苦笑しました。

浜医大では医図協は言うまでもなく、東海地区医学図書館協議会や静岡県医療機関図書室連絡会の方々との交流がありました⁹⁾¹⁰⁾。東海地区医学図書館協議会では特別研修会『大震災に対して図書館は何かできるか』において「国立大学の動きを知りたい」という要望を受

け、「図書館の〈輪〉：国立大学の取り組みと復旧への歩み」を発表しました(ほぼ同内容で静岡県大学図書館協議会総会でも発表)¹¹⁾⁻¹³⁾。静岡県医療機関図書室連絡会は浜医大が事務局でしたから、ベテラン係長と相談して定例会や研修会の企画・運営に取り組みましたが、加盟機関は大学図書館、専門学校、看護協会、病院図書館と幅広く、メンバーも活動に対する熱い思いを持っている方が沢山いらして充実した内容を重ねることができました。医学図書館以外でもデジタルリポジトリ連合(DRF)の協力をいただき、東海地区初のDRF技術ワークショップとしてDRFtech-Hamamatsuを開催し、県内外の方々とも交流を深めることができました¹⁴⁾。

密度の濃い2年間を過ごした浜医大ですが、また図書館をリニューアルし大幅な変貌を遂げて11月にオープンしたそうなので早く見学に行きたいものです¹⁵⁾。

Ⅳ. 少し前から現在

浜医大以後は京都大学、東京工業大学、東北大学、そして現在の新潟大学と異動しており、その間、医学図書館の方々との個人的なお付き合いはあったものの、少々縁遠くなっています。それでも東北大学では医学分館での運営会議の陪席などで時々行くことができました。かなり老朽化が進んでいましたが、幸いにして改修工事が進んでおり、来春には新装開館の予定ですので、こちらも楽しみです¹⁶⁾。そして新潟大学医歯学図書館(旭町分館)も現在、改修工事の予算要求中で成就を願っているところですが、お披露目の頃はお役御免の後でしょう。

Ⅴ. おわりに

医学図書館との関わりも振り返れば楽しいことが多く、「官六」の新潟大学で定年を迎えるのも何かの御縁なのでしょう。今のところ少々不義理をさせていただいている繋がりはリタイヤ後に改めて、と思う昨今です。

注・参考文献

- 1) 橘正道. 小史と新営計画(加盟館紹介:千葉大学亥鼻分館). 医学図書館. 1994;41(1):22-4.
- 2) [日本医学図書館協会第26回医学図書館研究集会] 実行委員会(関東地区). 第26回「医学図書館研究集会」を終えて. 医学図書館. 1991;38(4):446-8.
- 3) 千葉大学附属図書館亥鼻分館利用案内[internet]. https://www.ll.chiba-u.jp/useguide_inohana.html [accessed 2020-11-21]



- 4) 第22回医学情報サービス研究大会(愛知大会)[internet]. <http://mis.umin.jp/22/> [accessed 2020-11-21]
- 5) 第23回医学情報サービス研究大会(千葉大会)[internet]. <http://mis.umin.jp/23/index.html> [accessed 2020-11-21]
- 6) 谷澤滋生. 「第23回医学情報サービス研究大会」報告. 医学図書館. 2006;53(4):418-24.
- 7) 下原康子. 第23回医学情報サービス研究大会公開シンポジウム「図書館への期待-患者・家族が病気と治療について学ぶために」. 医学図書館. 2006;53(4):425-31.
- 8) 電子ジャーナルについて. [internet]. ひくまの: 浜松医科大学附属図書館報. No. 62. <http://hdl.handle.net/10271/00003391> [accessed 2020-11-21]
- 9) 東海地区医学図書館協議会 [internet]. <http://tokaito.umin.ne.jp/kyogikai/kyogikai.htm> [accessed 2020-11-21]
- 10) 静岡県医療機関図書室連絡会 [internet]. <https://www.hama-med.ac.jp/lib/publication/renrakukai/index.html> [accessed 2020-11-21]
- 11) 平成23年度東海地区医学図書館協議会特別研修会(NPO 法人日本医学図書館協会東海地区会共催・日本薬学図書館協議会東海地区協議会協賛)「大震災に対して図書館は何かできるか」 [internet]. <http://tokaito.umin.ne.jp/sonota/shinsai.pdf> [accessed 2020-11-21]
- 12) 加藤晃一. 図書館の〈輪〉: 国立大学の取り組みと復旧への歩み. 平成23年度東海地区医学図書館協議会特別研修会:2011年6月1日. [internet]. <http://hdl.handle.net/10271/2516> [accessed 2020-11-21]
- 13) 加藤晃一. 東日本大震災における国立大学の状況. 平成23年度静岡県大学図書館協議会総会:2011年8月5日. [internet]. <http://hdl.handle.net/10271/2555> [accessed 2020-11-21]
- 14) ワークショップ「DRF技術ワークショップ in 浜松(DRFtech-Hamamatsu)」を開催!. [internet]. ひくまの: 浜松医科大学附属図書館報. No. 59. <http://hdl.handle.net/10271/00003388> [accessed 2020-11-21]
- 15) [浜松医科大学] 附属図書館 改修竣工記念式典を挙行 [internet]. <https://www.hama-med.ac.jp/lib/topics/2020/26587.html> [accessed 2020-11-21]
- 16) [東北大学附属図書館] 医学分館改修工事のお知らせ [internet]. <http://www.library.med.tohoku.ac.jp/renewal/renewal.html> [accessed 2020-11-21]